

[研究論文]

小学生の社会的能力育成による対話力向上の試み
—社会性と情動の学習プログラム「SEL-8S」を用いたカリキュラム開発—

A trial of improving dialogue skills of elementary school students with fostering social abilities
— Curriculum development with "SEL-8S", a social and emotional learning program —

野 津 久 美 恵
Kumie NOTSU

小 泉 令 三
Reizo KOIZUMI

福岡教育大学大学院教育学研究科教職実践専攻
生徒指導・教育相談リーダーコース/
福津市立上西郷小学校

福岡教育大学教職実践ユニット

(2022 年 1 月 31 日受理)

本研究は、児童の対話力向上のために、対話力のスキルを学ぶ学習を位置付けた年間カリキュラムの作成と児童の実態に合わせた SEL-8S プログラムの指導案・教材を作成し、検証した。全学年で実施したところ、社会的能力の児童自己評価において、社会的能力全般に有意な交互作用が見られ、社会的能力の低い児童・中間位の児童の下位尺度の得点が有意に、または有意傾向を示して上昇した。また、対話力の児童自己評価と教師評価において、対話力の下位尺度の得点に有意な上昇が見られた。加えて、日常的な対話力の変容をみるために、算数科と外国語科の授業観察を行ったところ、授業における対話力の見取りの5つの観点のうち4観点が平均得点が上がっていた。これらのことから、児童への SEL-8S プログラムの実践が対話力向上の一助となる可能性が示唆された。

キーワード：対話力、社会的能力、社会性と情動の学習プログラム「SEL-8S」、対話スキル学習

問題と目的

学習指導要領の言語活動の充実に関する基本的な考え方(文部科学省, 2012)では、言語活動の充実とともに、コミュニケーション能力の育成が求められている。日本経済団体連合会(2018)の公表した「2018年度新卒採用に関するアンケート調査結果」では、採用選考で重視する要素は、16年連続で「コミュニケーション能力」が一位であった。さらに、Society5.0に向けた人材として、自己の主体性を軸にした学びに向かう一人一人の能力や人間性が問われており、文部科学省(2018)では、その中で特に共通して求められる力の一つとして文章や情報を正確に読み解き、他者と対話する力が必要であると挙げている。

多田(2006)は、言語や非言語により相手とコミュニケーションを行い、共有できる価値観や概念を生

み出していく行為を「対話」とし、学校や社会において対話を活用する環境が少なく、対話力向上のためのトレーニングをする機会がないことを問題点として述べている。そのため、授業において話し合いの時間を設定しても、何をどう語ってよいかわからず黙り込んだり、相手と異なる意見をいうことを憶してしまったりするケースが少なくない(梅澤, 2014)。以上のような状況だからこそ、円滑にコミュニケーションを図ることができるスキルを児童に培わせていくことが重要ではないかと考える。

対話力と社会性と情動の学習「SEL」

主題にある「対話力」とは、「多様な他者と円滑にコミュニケーションを図る態度や能力」と定義する。「対話」には、①儀礼的会話(ルールを示し、自由に考えを出し合う対話)、②討論(安心感がある場において、意見をぶつけ合う対話)、③内省的対話(自分と相手の内面に深く耳を傾け、個人的な思いや体験

表1 8つの学習単元で育成を図る社会的能力(小泉, 2011)

社会的能力		学習単元	A 基礎的 生活習慣	B 自己・他者へ の気づき、聞く	C 伝える	D 関係 づくり	E ストレス マネジメント	F 問題防止	G 環境変化 への対処	H ボラン ティア
基礎的	自己への気づき			○			○		○	
	他者への気づき			○						○
	自己のコントロール		○		○	○	○	○		
	対人関係		○	○	○	○		○		
	責任ある意思決定				○			○	○	
応用的	生活上の問題防止のスキル							○		
	人生の重要事態に対処する能力								○	
	積極的・貢献的な奉仕活動									○

を共有したり、相手の立場に立って考えたりする対話)、④生成的対話(新たな意味や方向性を生み出す対話)の4段階の深まりがあり、③④のように、相手の話を傾聴し相手の立場に立って考えたり、新たな気づきやよりよい価値観を生み出したりする児童の姿が対話力の高まりのある姿と捉える(上西郷小学校, 2020)。

本研究における対話力は、「話すこと」「聴くこと」「話し合うこと」「関係づくり」の4つの領域とそれぞれの領域における「話し手スキル」、「聴き手スキル」、「話し合いスキル」、「対人関係スキル」の4つのスキルで構成されるものとした。この対話力を育成させるために、実践校において、対話力のスキルを学ぶ学習(以下、対話スキル学習)を設定した。対話スキル学習は、朝の活動として行う15分間の学習(以下、モジュールの時間)と、月1回1単位時間の学習(以下、ロングの時間)で構成され、教育課程に位置付けながら、他教科・領域と関連させて行うものであり、主に、国語科「話す・聞く」、生活科、総合的な学習の時間において実践することとした。

次に「社会性と情動の学習「SEL」とは、「自己の捉え方と他者との関わり方を基礎とした、社会性(対人関係)に関するスキル、態度、価値観を身に付ける学習」と説明されている(小泉, 2011)。SELのうち、8つの社会的能力の育成を目指した学習プログラムがSEL-8Sプログラム(以下、SEL-8S)である。8つの社会的能力とは、対人関係において基礎となり、汎用的で日常のさまざまな生活場面で必要な5つの「基礎的社会的能力」と、基礎的社会的能力をもとにした、より複合的で応用的な3つの「応用的社会的能力」で構成される。これらの社会的能力を育てるために、表1のようなA～Hの学習単元が設定されている。

本研究は、児童の対話力を高めるために、年間カリキュラムを設定し、対話スキル学習ロングの時間において、児童の実態に合わせたSEL-8Sの指導案・

教材(以下、SEL-8S 追加指導案・教材)を作成して実践し、その効果を検証することを目的とした。また、実践校の3・4学年、5・6学年で、社会的能力の低い群・中間位の群・高い群に分け、社会的能力による変容の違いが見られるかどうか調べた。

方法

研究期間

202X年1月～202X年12月

研究参加者

公立A小学校の全児童(1～6学年)132名と教師12名

効果測定

本研究の検証として、以下の測度を設定した。分析には、HAD(清水, 2016)を用いた。

(1) 社会的能力 児童の社会的能力の変容を図るために、小学生版「社会性と情動」尺度(田中・真井・津田・田中, 2011)を用いた。SEL-8Sの8つの社会的能力について26項目4件法で、3学年以上の児童に尋ねた。得点が高いほど、社会的能力の自己評価が高いことを示している。

(2) 対話力(児童自己評定) 児童の対話力の変容を図るために、児童用対話力アンケートを自作した。これは、第一著者が実践校の系統的・発展的な目標設定の指針として作成した「領域別目標到達度一覧表」と「対話力アンケート」(梅澤, 2014)をもとに、対話力を構成する項目を定めたものである。具体的には、発達段階に即して、低学年16項目、中学年18項目、高学年18項目とした。低学年は全項目3件法、中学年・高学年は4件法で実施し、得点が高いほど、対話力の自己評価が高いことを示している。(Appendix 1 参照)

(3) 対話力(教師評定) 児童用対話力アンケートと同様、「話し手スキル」、「聴き手スキル」、「話し合いスキル」、「対人関係スキル」の4項目について、4

件法で学級担任に尋ねた。得点が高いほど、児童の対話力に対する教師の評価が高いことを示している。(Appendix 2 参照)

(4) 対話スキル学習についての児童の理解度 各授業実施後、全学年児童に対し、学習の振り返りを求めた。「学習したスキルのポイントの理解」「ポイントを意識したエクササイズの有無」「今後のポイントの活用」の3項目について4件法で尋ねた。得点が高いほど、学習したスキルに対する理解・活用・今後の実践意欲の高まりを示している。加えて、学習で感じたこと・思ったことについて、自由記述も求めた。

(5) 対話スキル学習についての教師認識 各授業実践後、学級担任に対し、学習指導の振り返りを求めた。指導目標の達成度、スキル学習の児童の様子、児童自己評価の有無、授業後のスキルの習得状況の4項目について、4件法で尋ねた。得点が高いほど、教師が児童のスキル学習への変容を見取っていることを示している。加えて、対話力の日常化への指導内容や授業の改善案等について、自由記述も求め、教師が対話スキル学習に向けて具体的な方策等を考えられるようにした。

(6) 対話力の日常化 対話スキル学習以外の授業観察を行った。第一著者が先行研究をもとに5観点17項目から成る「授業における対話力の見取りの観点」(表2)を作成し、A校の研究推進部に提案した。そして、2・4学年の算数科、5学年の外国語科において、授業の行動観察を行った。17項目の出現頻度を測定し、観点ごとの平均点の変容を調べた。得点が高いほど、日々の授業における対話力の高まりを示している。

実践の具体的内容

次の2点において、SEL-8Sを促進するためのシステム構築を行った。

(1) SEL-8S システム構築

a. 取組の体制(組織作り)

第一筆者が、実践校の管理職と研究推進部に組織化の提案をし、SEL-8Sを校内研修の一部として位置づけ、推進していく分掌を立ち上げた。そして、第一筆者がその分掌を補佐しながら推進していくこととなった。

b. 教育課程への位置づけ

対話スキル学習に関する年間カリキュラムを1・2学年、3・4学年、5・6学年ごとに作成した。年間カリキュラムには、4つの領域に関する4つのスキルを育成するために、SEL-8Sを配置した。また、対話スキル学習ロングの時間以外にも、モジュールの時間や他教科・領域にSEL-8Sを組みこみ、学ん

だ対話力のスキルの定着を図るとともに、教育活動全体で社会的能力を育てることができるようにした。このカリキュラムを研究推進部に提案し、研究推進部が年度初めの職員会議で全体に提示した。そして、5月に第

二著者のコンサルテーションにより、SEL-8Sの教育課程の位置づけの仕方について管理職の理解を促した。続いて、6月の全職員での校内研修と10月の研究推進部会議で、カリキュラムの見直しを行った。

(2) SEL-8S 追加授業案・教材の作成・提案

年間カリキュラムをもとに、毎月1単位時間に行われる対話スキル学習ロングの時間における全学年SEL-8S追加指導案・教材を第一著者が作成し、研究推進部と検討した後、全職員に提案した。

SEL-8Sの授業展開に準じ、①イントロダクション(学習課題への意識づけ)、②教師のモデリング、③スキルのポイント提示、④活用場面におけるスキル獲得のためのロールプレイ、⑤フィードバックの5段階を設定した。また、スキルのポイントをまとめた板書用掲示物、学習プリント等を研究推進部と検討して準備し、実践校で統一して取り組むことができるようにした。このような工夫と準備をもとに、学級担任がT1又はT2、第一著者がT2又はT1で、対話スキル学習ロングの時間を実施した(表3)。

例として、3学年において実践した、対話スキル学習ロングの時間「アサーションの仕方を考えよう」について述べる。授業前には、モジュールの時間において、人との関わり方のタイプは3つあることを知らせ、タイプによって関わり方に違いがあることを事前に学習しておいた。導入段階では、イントロダクションとして、アサーションチェックシート(秋田県総合教育センター、2015)を行い、今の自分の人との関わり方のタイプに気づかせた。展開段階では、教師によるモデリングを行い、「自分も相手も大切にしながらしっかり伝えるコミュニケーション」である、アサーションのポイントを提示した。その際、アサーションのポイントを覚えやすくするために、第一著者が自作した「語呂合わせした

表2 授業における対話力の見取りの観点

話す態度	
1	相手を見て話す
2	聞こえる声の大きさ、速さで話す
3	表情・身振り手振り等を使って話す
4	最後まではっきり話す
5	話すためのツール(絵や資料等)を使って話す
話す内容	
6	つながりを考えて考えを伝える
7	自分の考えを工夫して伝える(理由をつけて)
8	自分の考えを工夫して伝える(例・経験)
考えの再構成	
9	新たな自分の考えが加わる
聴く態度	
10	相手を見て聴く
11	相手の話を最後まで聴く
12	相手に反応して(表情・手振り・つなぎ)聴く
13	相手を認める言葉かけをして聴く
対話を続ける技術	
14	バックトラッキング(繰り返し)を入れる
15	相手に質問する
16	適切な間をとる
17	質問に対してこたえる

表3 対話スキル学習ログの時間の内容と育てるスキル、SEL-8S との関係

	回	月	内容	育てるスキル	学校行事・他教科・他領域との関係
				(関連する SEL-8S の学習単元)	
1・2 学年 (低学年)	1	4	学級での基本スキルを知ろう	対人関係スキル(A 基本的生活習慣) 話し手スキル(C 伝える)、聴き手スキル(B 自己・他者への気づき聞く)	歓迎遠足、縦割りグループ 顔合わせ
	2	5	いろんな言葉で自己紹介をしてみよう	対人関係スキル(D 関係づくり) 話し手スキル(C 伝える)	生活科「保育園児と芋苗をうえよう」、外国語科「挨拶をしよう」
	3	6	ふわふわことばとちくちくことば	対人関係スキル(D 関係づくり)	ウォークラリー集会、学校生活
	4	7	自分も相手も大切にしたい言い方をしよう	対人関係スキル(D 関係づくり)	縦割り活動「1 学期活動振り返り」
	5	9	望ましいストレス対処法について考えよう	対人関係スキル(E ストレスマネジメント)	学級活動、モジュールの時間
	6	10	5W1H に気を付けて話そう	話し手スキル(C 伝える)	生活科「保育園の子といもほりをしよう」
	7	11	話をつなごう	聴き手スキル(B 自己・他者への気づき聞く)	ふれあいまつり、生活科「わくわくらんど」「自分発見」
3・4 学年 (中学年)	1	4	学級での基本スキルを知ろう	対人関係スキル(A 基本的生活習慣) 話し手スキル(C 伝える)、聴き手スキル(B 自己・他者への気づき聞く)	歓迎遠足、縦割りグループ 顔合わせ
	2	5	いろんな言葉で自己紹介をしてみよう	対人関係スキル(D 関係づくり) 話し手スキル(C 伝える)	総合「A 市のいいところをみつけよう」「西郷川プロジェクト」
	3	6	学級での話合いの仕方を練習しよう	話合いスキル(D 関係づくり)	ウォークラリー集会、学級活動「一学期のまとめの会をしよう」
	4	7	自分も相手も大切にしたい言い方をしよう	対人関係スキル(D 関係づくり)	縦割り活動「1 学期活動振り返り」、総合「自然を楽しもう」
	5	9	望ましいストレス対処法について考えよう	対人関係スキル(E ストレスマネジメント)	学級活動、モジュールの時間
	6	10	ワールドカフェをしよう	話合いスキル(D 関係づくり)、話し手スキル(C 伝える)、聞き手スキル(B 聞く)	対話学習「地域のお助けマンになろう」
	7	11	1 メッセージで思いを伝えよう	対人関係スキル(D 関係づくり)	ふれあいまつり、学校生活
5・6 学年 (高学年)	1	4	学級での基本スキルを知ろう (6 年モデル演示)	対人関係スキル(A 基本的生活習慣) 話し手スキル(C 伝える)、聴き手スキル(B 自己・他者への気づき聞く)	歓迎遠足、縦割りグループ 顔合わせ
	2	5	いろんな言葉で自己紹介をしてみよう	対人関係スキル(D 関係づくり) 話し手スキル(C 伝える)	外国語「留学生の人に自己紹介をしよう」
	3	6	学級での話合いの仕方を練習しよう	話合いスキル(D 関係づくり)	ウォークラリー集会、学級活動「一学期のまとめの会をしよう」
	4	7	自分も相手も大切にしたい言い方をしよう	対人関係スキル(D 関係づくり)	縦割り活動「1 学期活動振り返り」、外国語「留学生とユニセフについて話そう」
	5	9	適したストレス対処法について考えよう	対人関係スキル(E ストレスマネジメント)	学級活動、モジュールの時間
	6	10	ブレインストーミングをしよう	話合いスキル(D 関係づくり)、話し手スキル(C 伝える)、聞き手スキル(B 聞く)	対話学習「地域のお助けマンになろう」
	7	11	トラブル解決の方法について考えよう	対人関係スキル(D 関係づくり)	ふれあいまつり、学校生活

掲示ポスター」を用いた。そして、学校生活場面におけるロールプレイを行わせた。終末段階では、ロールプレイを行って感じたことや思ったこと、今後の活用について、フィードバックをさせた。授業後は、児童が見やすい場所にポスターを掲示し、担任教師が意識的に声をかけるよう促した。

(4) 学級担任における実践の意識化

SEL-8S の理解促進のための通信を毎月発行した。掲載内容は、実施した授業におけるスキル内容、スキルのポイントの要点、授業中の児童の様子、授業後の教師の振り返り、SEL-8S の特徴等の資料などであった。

また、各授業の実践前には、第一著者が学級担任と実践内容について打ち合わせを行い、実践後の児童の見取り方について助言したり、学習したスキルのポイントを職員室の見える位置に掲示したりし

た。

(5) 対話力の日常化における提案

対話スキル学習で学んだスキルを定着させる方策として、算数科学習の対話活動に着目した。そして、第一著者が先行研究をもとに、発達段階に合わせ、児童の発話の見本や指導の仕方をまとめた「算数科における対話活動」を作成し、校内研修で提案をした。そして、日常の算数科学習において、対話活動を行うことで、対話の日常化を図った。

結果

欠席者と回答に不備があるものを除く、1・2 学年 37 名、3・4 学年 39 名、5・6 学年 44 名を分析対象とした。

児童の社会的能力変容

3・4 学年において「小学生版『社会性と情動』尺度」(実践前)の結果から、8 つの因子尺度の平均得点の平均 ($M=3.172$) と標準偏差 ($1/2SD=0.202$) をもとに、上位 1/3 を高群 (13 名)、下位 1/3 を低群 (11 名)、中間位を中群 (15 名) とした。また、5・6 学年も同様に、8 つの因子尺度の平均得点の平均 ($M=3.128$) と標準偏差 ($1/2SD=0.215$) をもとに、上位 1/3 を高群 (16 名)、下位 1/3 を低群 (12 名)、中間位を中群 (16 名) とした。そして、実践後、「小学生版『社会性と情動』尺度」の 8 つの下位尺度について、群 (3) × 時期 (2) の分散分析を行った (表 4)。

その結果、3・4 学年において、「社会的能力全般」に有意な交互作用が見られた。また、「生活上の問題防止のスキル」以外の下位尺度において、有意または有意傾向の交互作用が見られた。下位検定を行うと、「自己への気づき」「人生の重要事項に対処する能力」「対人関係」「応用的社会的能力」で、低群児童の得点が有意又は有意傾向に上昇し、「他者への気づき」で、中群児童の得点が有意に上昇した。加えて、「積極的・貢献的な奉仕活動」で、低群児童と中群児童の得点が有意に上昇し、「自己コントロール」で、高群児童の得点が有意に下降していた。

5・6 学年においては、「社会的能力全般」に有意な交互作用が見られた。また、「自己への気づき」「他者への気づき」以外の下位尺度で、有意又は有意傾向の交互作用が見られた。下位検定を行うと、「対人関係」「人生の重要事項に対処する能力」「積極的・貢献的な奉仕活動」「基礎的社会的能力」「応用的社会的能力」で、低群児童の得点が有意に上昇し、「生活上の問題防止のスキル」で、中群児童の得点が有意傾向に上昇した。さらに、「自己の気づき」

表4 社会的能力の下位尺度の平均値とSD及び分析結果

		実践前		実践後		主効果（高低群）			主効果（時期）			交互作用 （高低群*時期）		
		M	(SD)	M	(SD)	F値	P値	効果量 η^2	F値	P値	効果量 η^2	F値	P値	効果量 η^2
3・4年生（df=39）														
自己への気づき	高群	3.641	(0.346)	3.513	(0.555)	10.001	.000 **	0.351	6.917	.012 *	0.158	4.619	.016 *	0.200
	中群	3.333	(0.322)	3.604	(0.349)									
	低群	2.697	(0.567)	3.303	(0.547)									
他者への気づき	高群	3.641	(0.214)	3.154	(0.350)	12.095	.000 **	0.395	0.011	.916	0.000	9.276	.001 **	0.334
	中群	3.021	(0.310)	3.292	(0.453)									
	低群	2.727	(0.327)	2.970	(0.526)									
自己コントロール	高群	3.692	(0.253)	3.179	(0.675)	8.816	.001 **	0.323	0.033	.856	0.001	8.539	.001 **	0.316
	中群	3.125	(0.363)	3.354	(0.479)									
	低群	2.636	(0.315)	2.970	(0.605)									
対人関係	高群	3.667	(0.304)	3.256	(0.580)	6.660	.003 **	0.265	1.334	.255	0.035	9.091	.001 **	0.330
	中群	3.208	(0.269)	3.458	(0.469)									
	低群	2.758	(0.368)	3.212	(0.478)									
責任ある意思決定	高群	3.410	(0.474)	3.128	(0.420)	8.223	.001 **	0.308	0.009	.927	0.000	2.467	.099 +	0.118
	中群	2.979	(0.310)	3.229	(0.398)									
	低群	2.636	(0.658)	2.697	(0.706)									
生活上の問題防止のスキル	高群	3.564	(0.370)	3.410	(0.277)	19.150	.000 **	0.509	0.014	.907	0.000	0.934	.402	0.048
	中群	3.438	(0.359)	3.563	(0.338)									
	低群	2.848	(0.524)	2.909	(0.518)									
人生の重要事項に対処する能力	高群	3.436	(0.516)	3.205	(0.586)	5.796	.006 **	0.239	1.687	.202	0.044	2.654	.084 +	0.125
	中群	2.979	(0.551)	3.229	(0.483)									
	低群	2.515	(0.639)	2.970	(0.640)									
積極的・貢献的な奉仕活動	高群	3.744	(0.309)	3.590	(0.454)	13.798	.000 **	0.427	3.933	.055 +	0.096	2.905	.067 +	0.136
	中群	3.208	(0.453)	3.521	(0.365)									
	低群	2.636	(0.836)	3.152	(0.565)									
基礎的社会的能力	高群	3.610	(0.186)	3.246	(0.446)	14.839	.000 **	0.445	1.145	.292	0.030	9.486	.000 **	0.339
	中群	3.133	(0.119)	3.388	(0.358)									
	低群	2.691	(0.331)	3.030	(0.515)									
応用的社会的能力	高群	3.581	(0.209)	3.402	(0.316)	27.071	.000 **	0.594	2.877	.098 +	0.072	4.081	.025 *	0.181
	中群	3.208	(0.253)	3.438	(0.277)									
	低群	2.667	(0.447)	3.010	(0.467)									
社会的能力全般	高群	3.599	(0.155)	3.304	(0.383)	23.211	.000 **	0.556	2.181	.148	0.056	8.909	.001 **	0.325
	中群	3.161	(0.118)	3.406	(0.304)									
	低群	2.682	(0.293)	3.023	(0.469)									
5・6年生（df=44）														
自己への気づき	高群	3.583	(0.310)	3.563	(0.398)	22.621	.000 **	0.519	5.394	.025 *	0.114	1.819	.175	0.080
	中群	3.196	(0.313)	3.412	(0.449)									
	低群	2.583	(0.429)	2.861	(0.521)									
他者への気づき	高群	3.396	(0.389)	3.396	(0.443)	13.635	.000 **	0.394	1.928	.172	0.044	0.800	.456	0.037
	中群	3.098	(0.283)	3.176	(0.443)									
	低群	2.583	(0.495)	2.833	(0.560)									
自己コントロール	高群	3.604	(0.304)	3.354	(0.672)	16.255	.000 **	0.436	0.995	.324	0.023	4.581	.016 *	0.179
	中群	3.000	(0.289)	3.235	(0.511)									
	低群	2.472	(0.437)	2.722	(0.583)									
対人関係	高群	3.667	(0.272)	3.500	(0.502)	16.138	.000 **	0.435	3.163	.083 +	0.070	4.941	.012 *	0.190
	中群	3.157	(0.291)	3.314	(0.399)									
	低群	2.556	(0.625)	2.944	(0.600)									
責任ある意思決定	高群	3.313	(0.354)	3.104	(0.664)	5.514	.007 **	0.208	0.383	.539	0.009	2.620	.085 +	0.111
	中群	2.725	(0.358)	2.922	(0.572)									
	低群	2.556	(0.557)	2.722	(0.722)									
生活上の問題防止のスキル	高群	3.417	(0.375)	3.292	(0.363)	8.909	.001 **	0.001	0.554	.461	0.013	2.948	.063 +	0.123
	中群	3.216	(0.407)	3.373	(0.331)									
	低群	2.806	(0.437)	2.889	(0.358)									
人生の重要事項に対処する能力	高群	3.604	(0.370)	3.333	(0.667)	9.658	.000 **	0.315	0.065	.799	0.002	5.849	.006 **	0.218
	中群	3.137	(0.514)	2.980	(0.448)									
	低群	2.528	(0.481)	3.028	(0.627)									
積極的・貢献的な奉仕活動	高群	3.708	(0.206)	3.458	(0.515)	12.821	.000 **	0.379	0.275	.603	0.007	5.043	.011 *	0.194
	中群	3.373	(0.406)	3.451	(0.310)									
	低群	2.750	(0.553)	3.028	(0.559)									
基礎的社会的能力	高群	3.513	(0.217)	3.383	(0.452)	21.756	.000 **	0.509	3.107	.085 +	0.069	4.097	.024 *	0.163
	中群	3.035	(0.155)	3.212	(0.338)									
	低群	2.550	(0.442)	2.817	(0.509)									
応用的社会的能力	高群	3.576	(0.182)	3.361	(0.399)	18.553	.000 **	0.469	0.470	.497	0.011	8.720	.001 **	0.293
	中群	3.242	(0.252)	3.268	(0.255)									
	低群	2.694	(0.379)	2.981	(0.407)									
社会的能力全般	高群	3.536	(0.178)	3.375	(0.416)	24.010	.000 **	0.533	2.576	.116	0.058	6.786	.003 **	0.244
	中群	3.113	(0.121)	3.233	(0.282)									
	低群	2.604	(0.365)	2.878	(0.452)									
+p<.10 *p<.05 **p<.01														

+ $p<.10$ * $p<.05$ ** $p<.01$

表5 対話力児童自己評定と対話力教師評定の対話力の変容

	児童自己評定					
--	--------	--	--	--	--	--

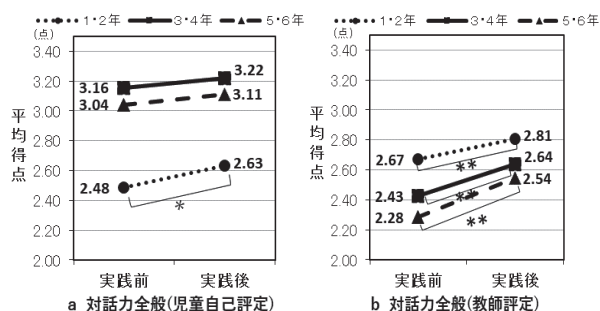


図1 対話力アンケートにおける対話力全般の平均得点の推移

において、次期の主効果が有意であり、全群の得点が有意に上昇していた(表4)。

対話力(児童・教師)の評価の変容

「児童用対話力アンケート」の4つの因子について、実践前後のt検定を行った。対話力全般(児童自己評定)の平均得点は、全学年で上昇していた(図1)。また、1・2学年、3・4学年、5・6学年において、対話力のいくつかの下位尺度で、平均得点が有意に上昇し、その内、全学年の「聴き手スキル」で、有意な得点上昇が認められた(表5)。

「教師用対話力アンケート」の4つの尺度において、実践前後のt検定を行ったところ、対話力全般(教師評定)の平均得点は、全学年で有意に上昇していた。対話力の下位尺度において、1・2学年は「聴き手スキル」で有意な得点上昇があった。また、3・4学年と5・6学年は全ての下位尺度において、実践後の得点が有意に上昇していた(表5)。

学習における児童の理解度と教師認識

各授業実施後、全児童に対して、学習したスキルについての自己評価を求めたところ、各学年の平均は全て3.5以上の高い得点であった(図2)。また、自由記述において、例えば3学年「アサーションの仕方を考えよう」では、「アサーションのポイントがよくわかった。」「アサーションの仕方を友達に話しかけるときに使っていききたい。」とあり、スキルのポイント提示のよさを感じている様子が窺えた。

また、授業後の教師アンケートからみられた教師評価の得点は、概ね3以上あり、教師が対話スキル学習での児童の変容を感じていることがわかった。自由記述においては、「アサーションができていない児童に対して、その都度賞賛をしたり、学級で紹介したりしていきたい」等、日常化への具体策を考える記載が見られ、スキル学習への教師の認識が高まっていることが窺えた。

算数科・外国語科の授業観察

2学年算数科、4学年算数科、5学年外国語科において、観察時間を1分のインターバルに分け、それぞれのインターバル中での観察児童の対話の状態を記録するタイムサンプリング法で、授業の行動

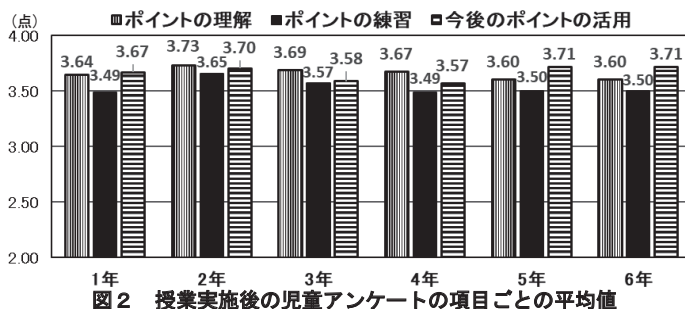


図2 授業実施後の児童アンケートの項目ごとの平均値

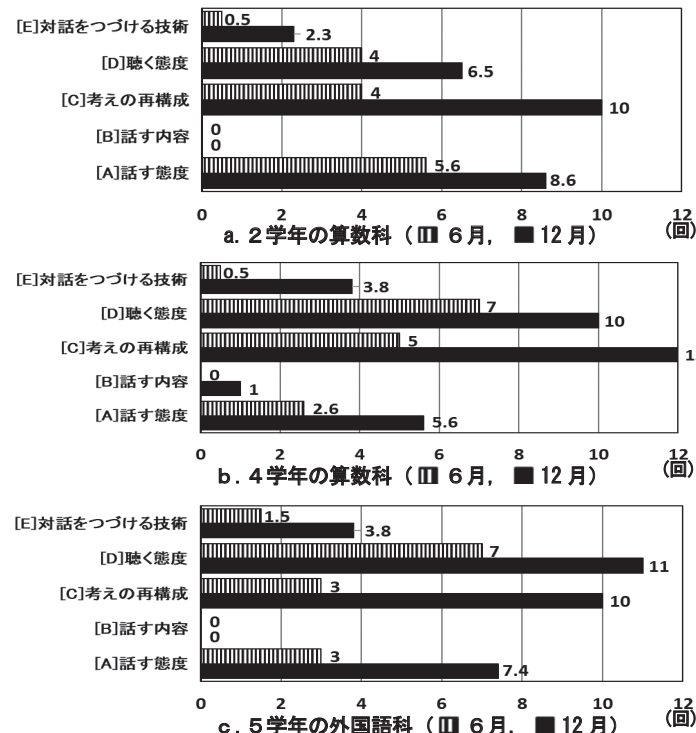


図3 授業観察における対話力の見取り5観測点の出現頻度

観察を行った。その際、「授業における対話力の見取りの観測点」をもとに、17の項目の出現頻度を計測し、「話す態度」「話す内容」「考えの再構成」「聴く態度」「対話を続ける技術」の5観測点ごとに平均をだした。算数科において、実践前(2年「かさ」, 6月3日)(4年「図を使って考えよう」, 6月15日)と実践後(2年「どんな計算になるのかな」, 12月9日)(4年「小数のかけ算」, 12月7日)を比べると、「話す内容」以外全ての観測点で上昇していた。また、外国語科において、実践前(5年「ホームパーティの計画をたてよう」, 6月9日)と実践後(5年「日本のイチオシを紹介しよう」, 12月9日)を比べると、どの観測点においても、得点が増加していた(図3)。

考察

本研究では、「多様な他者と円滑にコミュニケーションを図る態度や能力」である、対話力の育成にむけ、対話スキル学習に関する年間カリキュラムを

作成し、SEL-8S 追加指導案・教材を提案・実践してその有効性を検証した。

実践後、社会的能力の児童自己評価で、社会的能力全般に有意な交互作用が見られ、低群児童や中群児童の下位尺度の得点が有意、又は有意傾向を示して上昇した。さらに、対話力については、児童自己評価・教師評価で、下位尺度のほとんどの得点が、有意に上昇した。このことから、本実践が実践前に社会的能力が中程度以下の児童の社会的能力を高め、対話力の向上を促すことが示唆された。特に、対話力の下位尺度である「聴き手スキル」に有効であることが導き出された。このことは、多田(2006)が、聴くことはコミュニケーションの基本であり、よい聴き手は対話を深まりのあるものにする述べていることを明らかにするものだといえる。

また、各授業後の児童・教師の振り返りの結果において、児童も教師も SEL-8S のスキルのポイント提示のよさを感じていた。また、対話スキル学習以外の授業観察において、対話力の見取りの5つの観点の内、4つの観点の平均得点が実践後に上がっていた。このことから、SEL-8S の授業でスキルのポイントを意識化し、さらに、学んだスキルを日常の授業場面に意図的に仕組みながら、スキルの積み重ねを行うことは、対話力向上につながると考えられる。

以上のことから、組織作りや教育課程の位置づけ等、SEL-8S システム構築を行いつつ、SEL-8S 追加指導案・教材を開発し、モジュール等の朝活動や他教科・領域と関連させながら、対話スキル学習を行い、定着化をはかることは、児童の対話力向上の一助となることが推察された。

梅澤(2014)は中学年向けの対話スキル向上カリキュラムにソーシャルスキルトレーニングを取り入れることで、対話スキルが向上し、児童のスキル習得への自己認識の変容が見られたり、児童の人間関係の改善の手助けとなったりする可能性を論じている。本研究は、中学年だけでなく低学年と高学年も含めて全学年を対象に、対話スキル学習を計画的に長期間実践したものであり、その効果を検証したという視点から意義深いものであると考える。

最後に本研究の課題を2点述べる。1点目は、教師の実践力・意識化の向上である。今回の研究では、児童の対話力向上に向け、SEL-8S 追加指導案・教材の有効性に対する教師の考え方の違いや、学んだスキルを日常的・計画的に育てていこうとする意識に差が見られた。田中・小泉(2007)は、SEL プログラムのスキルや態度の強化・般化を促すためのアプローチの一つとして、「教師が育てたい児童の姿を明確に持つこと」を挙げている。全ての教師の実践力・

意識化の向上には、職員研修において意見交換の場の設定や授業交流も行いながら、目指す児童像を共有する必要がある。

課題の2つ目は、学習者である児童の実践への動機づけである。スキル学習の良さは感じているが、全ての児童が自己の変容を感じ、自ら日々の学習や生活に生かす状態には至っていない。小泉(2005)では、SEL-8S プログラムによって子どもの行動変容がもたらさせる過程には、「①SEL プログラムの学習」を他の学習や学校行事と関連付けて実施し(“点から線へ”)、学習後は教室環境の整備や直接の働きかけ、行動変容に向けた賞賛等によって、「②行動の変容」が生じるように促すことの重要性を示している。そこで、学んだスキルを活用し体得していくために、日常の学習場面において、スキルを用いた対話活動を定期的に行ったり、生活場面において、スキルの活用を振り返ったりする機会を設けて、実践への動機づけを継続して図っていくことが求められる。また、社会的能力の異なる児童へのアプローチ法も検討していく必要がある。

本研究では対話力向上における対話スキル学習に SEL-8S を位置づけ、年間カリキュラムを作成することで、教育課程への位置づけの基礎を培うことができた。今後も児童の対話力向上のために、目指す児童の姿を見据えた横断的な学習内容の組み立てについて、再検討・再構築をしていくことを期待している。

引用文献

- 秋田県総合教育センター (2015) 「いじめ学校自己診断表」活用のためのハンドブック
- 上西郷小学校 (2020) 令和元年度研究開発実施報告書
- 小泉令三 (2005) 社会性と情動の学習(SEL)の導入と展開に向けて 福岡教育大学紀要第4分冊, 54, 113-121.
- 小泉令三 (2011) 子どもの人間関係を育てる SEL-8S①—社会性と情動の学習(SEL-8S)の導入と実践— ミネルヴァ書房
- 文部科学省 (2012) 新学習指導要領の言語活動の充実に関する基本的な考え方
- 文部科学省 (2018) Society 5.0 に向けた人材育成に係る大臣懇談会
- 日本経済団体連合会 (2018) 2018 年度新卒採用に関するアンケート調査結果
- 清水裕士 (2016) フリーの統計分析ソフト HAD:機能の紹介と統計学習・教育、研究実践における利用方法の提案 メディア・情報・コミュニケーション研究, 1, 59-73
- 多田考志 (2006) 対話力を育てる 教育出版
- 田中展史・小泉令三 (2007) 社会性と情動の学習(SEL) プログラムの強化・般化に関する試行的実践—教科等との関連づけ、目標の個別化、保護者との連携を通して—福岡教育大学心理教育相談研究, 11, 73-81.

田中芳幸・真井晃子・津田彰・田中早（2011）小学生版
「社会性と情動」版「社会性と情動」尺度の開発 子
どもの健康科学, 11, 17-30

梅澤泉（2014）児童のコミュニケーション能力を育て
る「対話スキル」カリキュラムの開発と評価 早稲
田大学大学院教職研究科紀要, 6, 57-70.

Appendix 1 本研究で用いた児童用対話力アンケート項目

<p>児童用対話力アンケート（1・2学年） 16項目3件法（1～3点）</p> <p>1）はなしをきくとき、ともだちや せんせいを みて、きいている。</p> <p>2）さいごまで きいている。</p> <p>3）うなずきながら、きいている。</p> <p>4）はなしがわからない・もっとしりたいときは、しつもんをしている。</p> <p>5）はなしがおわらないよう、はなしにあることばをつかって、はなしをつづけようとしている。</p> <p>6）ともだちや せんせいのほうをみて、はなしをしている。</p> <p>7）ともだちや せんせいに きこえやすいこえの おおきさで、ゆっくり はなしをしている。</p> <p>8）さいごまで はっきり はなしをしている。</p> <p>9）りゆうをいって はなしをしている。（「どうしてかという」「～～だから」）</p> <p>10）じゅんばんを かんがえて、じぶんのかんがえを つくっている。（「はじめに」「つぎに」…）</p> <p>11）はなしあいひのなかで、じぶんのかんがえをいっている。</p> <p>12）はなしあいひのなかで、ともだちのかんがえをよくきいている。</p> <p>13）「たちどまって」「あいてをみて」「げんきよく」あいさつをしている。</p> <p>14）じぶんのことがつたえられるように、かんたんなじこしようかいを することができる。</p> <p>15）いやなときには、ひとと けんかにならずに、「いやだ」といえる。</p> <p>16）ともだちのきもちを かんがえて、うれしくなることばを いっている。（ふわふわことば）</p>	<p>8）伝わる声の大きさを、伝わるはやさで、話している。</p> <p>9）最後まではっきりと話している。</p> <p>10）資料（絵や図など）をつかって話している。</p> <p>11）相手に伝わるように、表情や身振り・手振りを使って話している。</p> <p>12）一番言いたいことに気を付けて、自分の考えをつくっている。</p> <p>13）話し合いのとき、友達の考えをきいて、自分の考えが変わったり、より詳しくなったりする。</p> <p>14）自分とちがう意見も受け入れしながら、折り合いをつけて話し合いをしている。</p> <p>15）「①立ち止まって」「②相手をみて」「③元氣よく」「④心」をこめて、挨拶をしている。</p> <p>16）相手にわかってもらえるように気を付け、自己紹介をする。</p> <p>17）自分がイライラしたとき、自分で気持ちをかえられる。</p> <p>18）友達の様子を観察し、自分も相手も大事にした言い方で、気持ちを伝えている。</p>
<p>児童用対話力アンケート（3・4学年） 18項目4件法（1～4点）</p> <p>1）友達の話をきくとき、相手をみながら、きいている。</p> <p>2）友達の話をきくとき、さいごまで きいている。</p> <p>3）友達の話をきくとき、反応しながらきいている。</p> <p>4）友達の話をきくとき、「いいね」「なるほど」「すごい」など、相手を認める言葉をかけている。</p> <p>5）友達の話をきいて、わからないことやききたいことがあるときは、質問している。</p> <p>6）友達の話をきくとき、その話や気持ちを確認しながら、話を続けようと思をつけている。</p> <p>7）相手をみて話している</p>	<p>児童用対話力アンケート（5・6学年） 18項目4件法（1～4点）</p> <p>6）友達の話をきくとき、内容を確認したり、話をまとめたりして、話を続けようとする。</p> <p>10）例をあげたり、経験を入れたり等、相手にわかりやすくなるよう工夫して話している</p> <p>12）自分の考えを伝えるときは、事実と意見・感想を区別して考えをつくっている。</p> <p>14）相手の思いをうけとめたり、相手の立場や考え方を理解したりして、折り合いをつけて話し合いをしている。</p> <p>15）①立ち止まって②相手をみて③元氣よく④心」をこめて⑤自分からはっきり挨拶をしている。</p> <p>17）自分の気持ちをコントロールしてし、トラブルを解決することができる。</p> <p>18）友達の様子を観察し、自分も相手も大事にした言い方で、気持ちを伝えることができる。</p> <p>（注）1）、2）、3）、4）、5）、7）、8）、9）、11）、13）、16）は、児童用対話力アンケート（3・4学年）と同項目内容。</p>

Appendix 2 本研究で用いた教師用対話力アンケート項目

対話力の領域 「対話力の 4つのスキル」	1・2学年（低学年）	3・4学年（中学年）	5・6学年（高学年）
話すこと 「話し手スキル」	<ul style="list-style-type: none"> ・相手を見て話す。 ・相手に伝わるように、声の大きさや速さに気を付けて、話す。 ・相手に伝わるように、最後まではっきり話す。 ・自分の考えを理由をつけて、話す。 ・自分の考えを事柄の順序を考えてつくる。 	<p>【低学年内容に加え】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを資料（絵や図など）を活用して話す。 ・相手に伝わるように、プレゼンテーションをする。 ・自分の考えを話の中心に気を付けて、考える。 ・自分の考えを、結論を先に述べ、根拠が明らかになるようにつくる。 	<p>【低・中学年内容に加え】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを例をあげたり、経験をいれたり等、相手によく伝わるために、表現を工夫して話す。 ・話の内容にあわせた表情やジェスチャーを使った話し方で、よりわかりやすく伝える。
聴くこと 「聞き手スキル」	<ul style="list-style-type: none"> ・相手を見て聴く。 ・最後まで聞く。 ・反応しながら（表情、身振り、手振り）聴く。 ・相手をみとめる言葉をかけて聴く。 ・わからないこと・知りたいこと等を質問する。 	<p>【低学年内容に加え】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内容や相手の気持ちについて質問したり、確認したりして、話をにつづける。 	<p>【低・中学年内容に加え】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内容にあわせ、言葉で確認したり、要約したりして話をつづける。
話し合うこと 「話し合いスキル」	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いの流れにそって、自分の考えを伝える。 ・友達の意見と自分の意見が「同じ」「違う」ということを考えて、話し合いをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを伝えたり、自分と異なる意見を受け入れたりしながら、折り合いをつけて話し合いをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の思いを受け止めて聴いたり、相手の立場や考え方を理解したりして、話し合いをする。 ・多様な意見を生かして、自分の考えを変えたり、より深まったりする。
関係づくり 「対人関係スキル」	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶のポイントを意識して挨拶をする。（①立ち止まって②相手をみて③元氣よく） ・簡単な自己紹介をする。 ・嫌なときは、人とけんかにならず、正しく伝える。 ・自分の言葉に気を付けて、相手がうれしくなる言葉を使う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶のポイントを意識して挨拶をする。（①②③に加え、④心をこめて） ・自分を表す挨拶文を考えて、自己紹介をする。 ・自分がイライラしたとき、自分で解消する。 ・自分の気持ちをいうとき、相手の気持ちを考えた言葉に言い換えて伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶のポイントを意識して挨拶をすることができる。（①②③④に加え、⑤自分からはっきり） ・相手とよい関係が作れるよう、工夫した自己紹介をする。 ・自分の気持ちをコントロールし、トラブルを解決する。 ・自分も相手も気持ちの大事にしながら、相手に伝わる言い方で思いを伝える。